

## I. 会社概要

1. 会社の名称	株式会社 山陽鉄工
2. 本社所在地	広島県呉市阿賀南2-9-5
3. 電話番号	0823-71-3131
4. URL	<a href="http://www.sanyotekko.co.jp">http://www.sanyotekko.co.jp</a> <a href="http://www.sanyotekko.jp">http://www.sanyotekko.jp</a>
5. 設立年月日	昭和23年2月13日
6. 資本金	10,000,000円
7. 上場の有無(店頭/2部)	なし
8. 業種・業態	造船・橋梁・設備関係
9. 代表者名(年齢)	賀谷 隆太郎(53歳)
10. 情報戦略責任者名(年齢、役職)	賀谷 隆太郎(代表取締役、53歳)
11. 直近の売上高(百万円、年)	2,210(2005年度)
その1年前の売上高(百万円)	1,962(2004年度)
その2年前の売上高(百万円)	1,895(2003年度)
12. 直近の経常利益額(百万円、年)	45(2005年度)
その1年前の経常利益額(百万円)	31(2004年度)
その2年前の経常利益額(百万円)	66(2003年度)
13. 現在の従業員数(うち社員数、年)	65名(本工:43名)(2005年度)
その1年前の従業員数(うち社員数)	63名(本工:41名)(2004年度)
その2年前の従業員数(うち社員数)	67名(本工:41名)(2003年度)
14. IT部門の有無(名称)	なし(社長直轄)
15. IT部門の責任者名(年齢、役職)	賀谷 隆太郎(代表取締役、53歳)
16. IT部門の人数(うち社員数)	0.5名
17. 直近のIT関連の年間費用(人件費も含む、百万円、年)	2.0百万(内人件費1.5百万)(2005年度)
その1年前のIT関連の年間費用(人件費含む、百万円)	2.5百万(内人件費1.5百万)(2004年度)
その2年前のIT関連の年間費用(人件費含む、百万円)	3.5百万(内人件費1.5百万)(2003年度)

## 平成18年度IT経営百選応募記入シート(2/2)

株式会社 山陽鉄工

18. 事業・商品・サービス内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 造船船殻部品の切断及び組立(対売上高比率85%、以下同様)</li> <li>2. 橋梁部品切断及び組立(2%)</li> <li>3. ホイストクレーン製作(10%)</li> <li>4. 自社商品販売(2%)</li> <li>5. その他(1%以下)</li> </ol>
19. ビジネスの特徴	
① 強み	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 厚板溶接技術及びホイストクレーン製造技術は、長年の実績があり高い評価を得ている。</li> <li>2. 自社商品(グラビティー溶接器、溶接棒乾燥庫)は、業界では知名度もありシェアも高い。</li> <li>3. 特に高齢者の雇用システムでは、種類の就業形態を採用し、「技術の伝承」及び労働力確保という点で強みとなっている。</li> <li>4. ITを活用した顧客への細やかな対応(業務改善提案など)</li> </ol>
② 付加価値	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 造船関係では、小組立(SUB)材の受託製作は全国的に当社のみある。(Only One)</li> <li>2. リアルタイムに業務状況が全て見える仕組みを社内イントラネット上に構築し、業務全般に渡って約10年間のデータベースを構築。社内情報の一元化、共有化、定量化、リアルタイム化、連携化、単純化など実現し、また経営判断に有効活用している。</li> <li>3. 特にISO9001を経営改善プログラムとしてシステム化し、作業工程、製造履歴など過去のデータをデータベース化。これらの情報を社内活用し、品質改善、短納期、低コスト化を実現、顧客満足度を高めている。</li> <li>4. 各種財務指標は、標準を大きく上回っており財務基盤が堅固である。(流動比率、固定比率、自己資本比率、利益率など)</li> <li>5. 社内ITシステムは、ほとんど自社開発、構築。</li> </ol>
③ こだわり	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「経営は数字である」と言うコンセプトの下、経営情報(製造、営業、経理など)の一元化、共有化、定量化を徹底的に追及。(ヒト・モノ・カネの今の状況の見える化推進)</li> <li>2. 物理的年齢に拘らない。「何が出来るか」が重要。高齢者雇用での様々な就業形態の探求。</li> <li>3. 顧客満足はもちろんのことであるが、経済面、福利厚生面、雇用面など「社員満足」の更なる充実。</li> <li>4. 特に「業務のIT化」は、最小コスト、最大効果を目指したシステム構築が重要。「金をかけるIT化」→「知恵をかけるIT化」</li> <li>5. あらゆる分野において、他社との徹底した差別化の実現。</li> </ol>
④ 独自性	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社内情報システムは、インフラから業務用ソフトまで全て自社構築。(自社のための、自社による、自社にあった最適システムの構築) システム数:約100, 稼働プログラム800以上。</li> <li>2. 高齢者雇用での先端的取組。 *IT化もその一端――労働負担軽減&amp;業務の標準化、平準化など *独立行政法人「高齢・障害者雇用支援機構」の「高年齢者就業形態開発事業」に参画など。</li> </ol>

## Ⅱ. 自己評価表1/2(ビジネス戦略・経営改革の視点)

会社名 株式会社 山陽鉄工

1 ビジネス戦略・経営改革の視点	評価を行なうに当たっての具体的事実
①業績の好調さ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 造船不況時以降20年連続黒字経営。 特に平成以降は、加工単価の連続的な低下が続く中、また世の中が不況時と言われる時期においても確実に利益を出してきた。</li> <li>2. IT経営を推進した1998年度以降、平均としてそれまでより高利益率。 (平均経常利益率:5~10%:当社実質売上は材料費を除く加工費)</li> <li>3. 配当は50%配当を継続実施。</li> <li>4. 2006年度は増収増益の見込み。</li> </ol>
②ビジネスモデル	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 顧客との業務サイクル短縮のための、エクストラネットを活用した業務連携。(スケジュール帳、掲示板、映像、データ受発信など)【強化】</li> <li>2. 社内システムは全て自社開発であり、日々リアルタイムで業務を追跡するシステムを構築。情報の共有化、一元化、定量化、連携化による「見える経営」(可視化)を実現。【強化】</li> <li>3. 特にISO9001活用の「経営改善プログラム」による、品質管理の体系的強化及び過去の顧客/製品/管理情報の一元管理また共有化の実現。【強化】</li> <li>4. 溶接機の稼働状況の自動計測により、各職場での稼働率向上対策など日常的な業務改善への活用。【新・強化】</li> </ol>
③経営の自立化	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 景気動向や売上増減に殆ど左右されない、毎期の確実な利益確保。</li> <li>2. グラビティー溶接器、溶接棒乾燥庫に加えて「機器稼働時間測定装置」を自社開発し、自社ブランドで販売。(商品名:喜々一発)</li> <li>3. 自己資本比率は約70%で、経営基盤は強固。</li> <li>4. 技術・技能及び経営システムの継続的強化を通じ、品質・納期・コスト面で競争力を維持・強化。それによる顧客からの高い評価と信頼。【強化】</li> <li>5. IT経営の基盤となるインフラ、ソフト構築はほぼ自社にて構築。 (経営システムも自社構築)</li> </ol>
④経営のオープン化	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社内イントラネットで業務遂行に必要な一切の情報の共有化、一元化、連携化を実現。(ほとんどオープン)【強化】</li> <li>2. 文書保管資料も原則社内オープン化。</li> <li>3. エクストラネットを活用した、顧客との情報共有。【強化】</li> <li>4. リアルタイム映像(WEB CAMERA)の公開。</li> </ol>
⑤満足度経営	<p>[顧客満足]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 顧客満足として、毎年の定期顧客審査にて高評価(A~E中のA)。</li> <li>2. ISO9001とリンクした顧客満足情報の収集に努め(最低1回/半年)、社内イントラネットを活用した顧客への素早い対応。【強化】</li> <li>3. 過去10年以上の単価低下(10%~15%以上)にも関わらず、品質を落とすこともなく顧客要求事項を厳守。(2002年以降ISO9001導入)</li> </ol> <p>[社員満足]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 県内製造業の平均値より約30%高い賞与を数年以上継続実施。</li> <li>2. 定年後の継続雇用を数年前よりすでに実施。今回定年後の一時継続雇用、65歳以上の二次継続雇用の区別を明確にし、一次継続雇用に関しては、給与など従前と同様。成績優秀者には昇給もあり。二次継続雇用に関しては、実質的に定年なし。 以上は就業規則を改訂し明文化、監督署に届出済。【新・強化】</li> <li>3. 法令を順守した労務管理(管理職にもタイムカードによる残業代全支給)</li> <li>4. 社員旅行、忘年会、定期身体検査(ドック形式)など全て会社負担で実施。身体検査に関しては、高齢者用の追加メニュー実施。配偶者も半額補助。【強化】</li> </ol> <p>[株主満足]</p> <p>50%配当実施。</p> <p>[社会貢献など]</p> <p>各種地域事業(教育、祭り、イベント、文化など)に協賛及び公職(社長)としての関連団体に参画。 (文化振興財団理事、業界団体幹事、商工会議所議員など) 環境問題の重要性を認識し、現在ISO14001認証取得プロジェクト活動中(2007年5月取得見込み)</p>

## Ⅱ. 自己評価表2/2(IT高度活用の視点)

会社名 株式会社 山陽鉄工

2 IT高度活用の視点	評価を行なうに当たっての具体的事実
①コミュニケーション	<ol style="list-style-type: none"> <li>各種掲示板、メール(ケータイメール含)、社内メッセージャー、工務ライブラリー、教育 ライブラリー、一般情報ライブラリー、品質ライブラリー、安全ライブラリー、画像掲示板、WEBカメラ設置のリアルタイム映像などによる情報共有化、一元化の実現。事務職には、1台以上/人の PCと個別メールアドレス配備。管理職には携帯配備。(端末PC台数:21台)【強化】</li> <li>ケータイからの社内システムアクセス実現によるコミュニケーション強化。</li> <li>顧客とのWEB, E-mail, エクストラネットによる日々の業務改善とスピードアップ。【強化】</li> <li>社内チャットシステムによる簡易文字会議の実現。【新】</li> <li>社内WEBカメラと電話(携帯含む)を活用した簡易遠隔会議の実現。</li> </ol>
②営業・マーケティングの改革・新商品や新サービス開発への活用	<ol style="list-style-type: none"> <li>顧客との受注履歴、生産履歴、フィードバック履歴など全ての顧客関連情報の一元化及び社内共有化の実現により、営業や製造のスピードアップの実現及び提案力の強化。</li> <li>WEB技術から考案した「機器稼働時間測定装置(実用新案)」の開発による、工程の定量的かつリアルタイムの管理方法を実現。及びこの仕組みを商品としての販売開始。(商品名:喜ター発)【新】</li> <li>ITを活用して、予定、CADデータ受発信、掲示板、データ交換など顧客との業務形態の改革し、顧客から高い評価を得ている。【強化(一部新)】</li> <li>会社ホームページは1996年に設置し、一部商品を販売。</li> </ol>
③プロセスの高度化・連携	<ol style="list-style-type: none"> <li>形式知-----IT化 暗黙知-----人間の役割分担の明確化を基本とした社内イントラネットシステム(SSI98)の構築。</li> <li>「いつでも」「誰でも」「どこでも」を基本に、社内外問わず、社内システムにアクセス可能。</li> <li>「one click! One answer!」のコンセプトの元、IT操作の単純化を実現するとともに「数字でモノが見える状況」を実現。【強化】</li> <li>経理、製造、購買、労務、人事などの全てのデータの連携化を実現。【強化】</li> <li>IT機器(機器稼働時間測定装置)を活用した、リアルタイム生産管理システムの構築及び生産業務改革の推進。【新】</li> <li>インターネットバンキングなどインターネットを活用した効率化及び購買のコストダウンの推進。【強化(一部新)】</li> <li>WEB CAMERAによるリアルタイム映像及び過去の映像のデータベース化。</li> </ol>
④人材・ノウハウの高度活用・高度な経営管理への活用	<ol style="list-style-type: none"> <li>IT活用によって、IT弱者(高齢者など)の各種分析業務の簡易化を実現。</li> <li>全業務の過去の履歴や各種資料(文書や画像、ビデオ)などデータベース化し、ナレッジマネジメントに活用。【強化】</li> <li>ケータイ、社内システム、メール、FAXなどを活用した在宅勤務がほぼ100%達成可能な状況を試行中。</li> <li>全ての経営情報の定量化、リアルタイム化による経営判断のスピードアップ。</li> <li>経営幹部が、社外からPC及びケータイにて社内システム閲覧可能また社内PCに接続可能となっているので、時間と場所を問わず各種経営情報にアクセス出来、24時間経営判断可能な状況を達成。【強化】</li> </ol>
⑤情報セキュリティ対策	<ol style="list-style-type: none"> <li>ウイルス対策は、送受信サーバ、各PCにて対応。その他のセキュリティー対策はルータにて実現。</li> <li>情報の重要度により、IPアドレスによるアクセス制限や認証による制限を設けている。</li> <li>スパイウェアに関しては、必要PCのみソフトにて対応。【新】</li> <li>社内システム(イントラネット)の全てのデータは、週単位で複製、社内及び社外にて 保存。(LAN上PC及び外部HDD)【一部新】</li> <li>ISO9001の教育テーマとしセキュリティーの重要性を教育指導。なお、これまで一度もウイルス感染など実害なし。</li> </ol>